

時論

○道路改良問題に對する諸名士の意見

道路の改良は刻下の緊急問題である、本會は其の問題解決の爲に

第一 農村救済策と道路問題

第二 小運送と道路問題

第三 財政緊縮の爲道路工事を中止又は繰延するの可否

第四 地方財政と道路問題

の四問題を掲げて、現時に於ける名士の意見を求めた、其の回答は數十名の多きに達したが其の内容は左の通りであつて、今日一般社會の道路に關する意嚮をうかゞふに足る、本會は諸名士が多忙の際、其の寸暇を割き本問題に付、其所見を披瀝せられたのは本會の深く感謝する處である。



東洋汽船株式會社々々長
淺野セメント株式會社々々長

淺野總一郎

サミュエル・ヒル氏の言

數年前米國道路王サミュエル、ヒル氏は予に語りて曰く「日本は道路悪しき爲め人口一人當り八錢宛の損害を日々に蒙り居れり」と、内地人口五千萬人と假定するも一日四百萬圓なり、果して然らば道路改良は當に都市の一面目問題に止まらずして國家經濟に關する大問題なり、斯くて問題は既に今日にては議論を超越し着々實行すべき時代に入れるに非ざる乎。

道路改良を中止又は繰延するは今日一

圓を惜みて他日百圓を支拂ふに等し

予は思惟す、今日道路改良を中止又は延期するは、今日の一圓を惜みて後日の百圓を失ふに等しと、都市道路の改良は劇務に携はる都人士の歩行時間を短縮し、自動車事故を軽減する外タイヤ機械の破損を少なからしめ歩行者も亦受くる利益大なり、通行人にして既に然り、況んや道路に面する兩側商店に於ておや、農村に於ても道路改良に依り農作物の運搬集散に多大の利益を受くる外、道路兩側の地價の昂騰により農家の財力を増し疲弊せる農村救済の一助たるべし、道路改良は都市と地方の差別なく一齊に即刻着手すべき問題なり、都鄙を通じて道路を改良することにより我國運輸機關の矛盾を矯め小運送を經濟的に導き得べし、即ち現在の我國運輸機關は大量運送に於てこそ汽車汽船の發達著しきも、積地へ又着地よりの集散小運送に大なる冗費嵩むを以て、門司横濱間の運賃と横濱又は東京市内配達賃と同一なる大矛盾あり、之れ明かに道路悪しきを以て貨物自動車利用の途未だ完全せざるに基因すること多し、斯くの如く隨處に道路問題横たはりにて産業經濟を阻害しつゝあれば、國家としても須臾も忽せに

なし能はざるなり、然るに政府の緊縮政策の結果大正十四年度より道路改良費を削減せらるゝに至れりと聞くは遺憾の極みなれども、政府にして道路改良に及ぶ財政なしとせば、吾人は民間の自力を以てすとも此事業は一日も放任すべからざるを主張せんと欲す、左に予の信ずる方法を開陳すべし。

自動車所有者は道路改良の爲二千圓宛の公債に應募し之が償還及利息の支拂に付ては自動車一臺に付年百圓宛の税金を加重すべし

東京の幹線道路改良費は約二千萬圓なりと聞く、今日東京にて約壹萬貳千臺の自動車所有者が道路改良のため貳千圓宛の道路公債に應募せば一舉にして貳千四百萬圓の改良資金を得べく、之れが償還及利息の支拂に付ては自動車一臺に付年百圓宛の税金を加重して一年百貳拾萬圓の支拂資金を得べし、自動車は年々其數を増加しつゝあれば、償還資金に支障を來す虞れなきものと信ず、自動車所有者が貳千圓の公債に應じ年百圓の税金を現在以上に負擔する程度のものは何等の苦痛なかるべし、假りに公債應募が至難なりとせば單に年百圓の加重税金のみを以て改良工事に充當すとすも本年度は百

貳拾萬圓の改良工事を進め得べく、來年度は或は貳百萬圓程度の工事を施し得るやも知れず、斯くて地方又道路兩側の地主或は自動車所有者等夫々適當なる策を樹て、前述の方法に準據すれば都鄙を通じて五六ヶ年にして全國道路の面目一新するに至るべし、徒らに政府の施設に依頼せず斷乎として自治改善の本領を發揮するを最も道路改善の捷徑なりと信ず、公債發行、加重税金の徵集其他必要なる法規制定のみを當局に建議せば足る問題なるが故に此際輿論を喚起して此一途に進進する機會の速かならんことを只管冀求して止まざる次第なり。

青森縣農會副會長 阿部 武智雄

農村救済策と道路問題

農村の疲弊を救済する二策

農村今日の疲弊を救済せんとするには、第一農産物の價格を經濟的に販賣すると、第二肥料其他の購買品を低廉に使用する農家の經濟を潤澤ならしむるにあるは尤も見易き方法にして、此二途は道路の善惡に依り甚しき差違を生ずるは議論に非ずして實際問題なり、鐵道停車場港灣等の利

便は全く農村と遠ざかる事多く、加ふるに明治八年改租の場合はその利便を參酌せるも、近來の諸稅賦課方法は此の點に毫も加味する事なし、交通不便の片田舎のものは益不理に陥り、住居地として立行かざる困難の處さへある實情なり、元來國土として國道は大門脈で縣村里道は支脈血脈なり、されば健全なる國土の發達を期せんには、血液循環の圓滿ならしむるに道路の開鑿、路面の改良程大切急務なるは非らざる可く、如何なる山間僻地なりとも、一度鐵道停車場を設置せば忽ち商店設立繁盛するは明なる事實であれば、農村今日の疲弊を救済する方法として道路開鑿改良するは第一の要件で、道路宜しければ運送賃低廉に輸送し得るを以て隨て其利益は元價に及ぼす故に、現下の農村救済策としては道路問題に直接關係ある緊要方法は非ざるべし。

小運送と道路問題

道路の遠近善惡の關係は運賃に基しき

差違あり

前言既に詳述せる如く、停車場又は港灣へ交通せんには、田舎の道路程必要なるはなし、貨物の集散上に此の道路に依る其道路の遠近善惡の關係に依り其運賃に甚しき差違あり、